

甲州市の人や暮らしをつたえる

KOSHULIFE

こうしゅうらいふ

2025 Vol.13



Nelk - 森山直樹 -

GEEKSTILL

- 岸川勇太・若月香・坂本裕子 -
夫婦で歩む、甲州での暮らし
- 大石雄樹・敦子 -

わたしと甲州市。

KOSHU COLUMN

- 大菩薩の風 -

甲州市の農業 - 小山友輝 -
KOSHU CITY LIBRARY



甲州市の人や暮らしをたえる

KOSHU LIFE

こうしゅうらいふ

山梨県甲州市は、日本百名山で知られる大菩薩嶺をはじめとする秩父山系の自然景観に恵まれ、ぶどうや桃、さくらんぼなどの果樹栽培が盛んな地域です。また国内随一のワイナリー数を誇り、世界に名だたる「甲州ワイン」も市内で多くつくられています。

甲州市での移住暮らしを伝えるフリーマガジン『KOSHU LIFE』(甲州らいふ)では、このまちに住む人々の暮らしや想いを伝えていきます。甲州市に来たことがある人も、これから初めて来る人も、またすでに甲州市に住んでいる人も、ありのままの甲州市を感じて、そこからあなただけの「わたしと甲州市」を見つけてください。

Contents

- | | |
|---|---|
| 03 甲州らいふについて | 20 「わたしと甲州市。」 Interview 03
大石雄樹さん・敦子さん |
| 04 KOSHU CITY AREA MAP | 22 甲州市の農業
小山友輝さん |
| 06 甲州らいふを数字で分析 | 24 甲州で育てる、甲州で暮らす
～海外出身パパたちのリアルボイス～ |
| 07 甲州市の特産品 | 26 KOSHU CITY LIBRARY |
| 08 EVENT CALENDAR | 28 My KOSHU LIFE
甲州市 移住のお役立ち情報 |
| 10 「わたしと甲州市。」 Interview 01
Nelk 森山直樹さん | 35 甲州市の歴史を巡る
vol.4 放光寺 |
| 14 GEEKSTILL 岸川勇太さん
若月香さん 坂本裕子さん | 36 ぶどうの丘が 50 周年！ |
| 17 なぜ大菩薩にアーティストが集まるのか？ 大菩薩の風ビエンナーレ | 39 KOSHU LIFE MEMBER |



KOSHU CITY AREA MAP

塩山、勝沼、大和と
それぞれに特色を持つ
甲州市をエリアごとに
紹介します。



Access 甲州市への都心からのアクセス

JR中央線（特急あずさ・かいじ）／新宿駅→（約90分）→塩山駅
高速バス／新宿西口高速バスターミナル→（約100分）→勝沼バス停
中央自動車道／永福IC→（約70分）→勝沼IC

約
90
分。

都心から



豊かな自然、歴史と文化に彩られた 果樹園交流のまち甲州市

甲府盆地の東部、都心から100km圏内に位置し、電車や車でのアクセスも良いため、移住先としてはもちろん、二地域居住にもオススメの地域です。気候は盆地特有の夏暑く冬寒いのが特徴ですが、降雪は年に数回程度ですのでそれほど心配いりません。このページでは各地域の特色を紹介します。



飲食店やスーパー、ホームセンターなど多くの商業施設が揃っている地域です。市役所や警察などの官公署や市民病院のほか、県立産業技術短期大学校、塩山高等学校などの教育施設もあり、市民の生活を支えています。またJR塩山駅には特急列

車が停車します。始発電車は早朝5時台から運行しており都内への通勤通学も十分可能です。日本百名山である大菩薩嶺は初心者から上級者まで多くの登山者を魅了し、春には桃の花が織りなす塩山桃源郷の美しい景観がまちを彩ります。



勝沼は日本のぶどう栽培発祥の地であり、国内随一のワイナリー数を誇る地域です。市内45ワイナリーの内、30を超えるワイナリーが集まり、甲州ぶどうを使った「甲州ワイン」は逸品です。年間を通してワイナリーには多くの観光客が訪れ、秋の

ぶどうシーズンには観光農園も大変な賑わいをみせます。また中央自動車道勝沼ICがあり、車で都内へ行くのにも便利。JR勝沼ぶどう郷駅もあり、駅からの甲府盆地やぶどう畠が広がる風景は四季折々に様々な表情を見せてくれます。



甲州街道（国道20号）の笹子トンネルを抜けた甲州市の東の入り口。武田家終焉の地とされる景德院や、臨済宗の名刹で巨大な自然石で造られた庭園が有名な栖雲寺などをはじめ、そば切り発祥の地としても歴史のある地域です。

道の駅甲斐大和では絶品のお蕎麦や地域の特産品が食べられ、日川渓谷レジャーセンターでは釣りやBBQが楽しめます。また四季折々違った表情を見せる渓谷美の竜門峡は、遊歩道が整備され誰でも楽しめるハイキングコースとして人気です。

数字で知る!

ANALYZED BY NUMBERS
from KOSHU CITY

28,670

(13,093世帯、2025.12月現在)

甲州市の人口

実際、甲州市はどんなところなのか、データを調べて数字で分析してみました。数字で見えてくる、まちの輪郭・特色をご紹介します。



甲州市20周年!

平成17年、旧塩山市、勝沼町、大和村の合併により誕生した甲州市は、20年の歩みを重ねてきました。大きいまちではありませんが、豊かな自然と果実の香りに包まれ、人ととのあたたかい繋がりを感じられるまちです。

45

ワイナリーの数(市内)

甲州市は国内随一のワイナリーが集まる地域です。世界に誇る「甲州ワイン」も市内で多くつくられており、年間を通して多くのワインファンが訪れます。

車は 1人1台 が当たり前!?

山梨県は3人に2人が自動車を所有していますが、免許を所有している世代に限れば、ほぼ1人1台所有と言っても過言ではありません。甲州市でもやはり車があった方が便利な生活が送れます。

※自動車検査登録情報協会公開の都道府県別の自動車保有台数

農業従事者 4,633人

甲州市は、ぶどう、桃、さくらんぼ、柿などの果樹農業が盛んです。山梨県や市では、新規就農応援制度を充実させ、受け入れ態勢を整えています。

※ 2020 農林業センサスより

到着時刻
新宿駅の

AM 7:29

新宿駅まで特急で約90分! 平日は朝5時54分の塩山駅出発の特急電車に乗れば、朝7時30分には新宿駅に到着。土日祝でも、朝7時18分の特急電車に乗れば9時前には新宿駅に、始発の普通電車で出発すれば8時前には新宿駅に到着することができます。

※ 2025年12月現在

教育施設数 (2025.12月現在)

- 大学等…塩山地域(1) 県立産業技術短期大学校
- 高校…塩山地域(1) 県立塩山高等学校
- 中学校…塩山地域(2) 勝沼地域(1)
- 小学校…塩山地域(8) 勝沼地域(4) 大和地域(1)
- 保育園等…塩山地域(9) 勝沼地域(2) 大和地域(1) ※休園中は除く

果樹園が織りなす農村風景が広がる本市では、年間を通じて様々なフルーツがつくられ、高度な栽培技術や果樹が織りなす四季折々の美しい風景は「世界農業遺産」にも認定されました。また日本固有のぶどう品種である甲州種を使った「甲州ワイン」は世界的にも高い評価を得ており、甲州市を代表する逸品です。ぜひ甲州市の特産品を味わっていただき、甲州市を身近に感じていただければと思います。

甲州市の代表的な

Major local specialities
in KOSHU City

“特産品”



① ぶどう

山梨県産オリジナル品種のサンシャインレッドや、シャインマスカット、巨峰、ピオーネをはじめ、ぶどう栽培に適した扇状地で栽培されたぶどうはどれも日本トップクラスの品質です。8月~10月頃までぶどう狩りを楽しむことができます。

③ さくらんぼ

甘酸っぱくて、みずみずしい果実の宝石と呼ばれるさくらんぼ。5月~6月頃までさくらんぼ狩りを行うことができます。



④ 枯露柿

甲州市の枯露柿の原料は甲州百目柿という大きな渋柿です。枯露柿は昔から保存食としてつくられており、武田信玄公が推奨することで生産が広まったと言われています。一つずつ丁寧につくられる枯露柿は、肉厚で柔らかく、自然の甘みが広がる逸品です。

甲州市ふるさと納税



ふるさと納税サイト

甲州市にふるさと納税寄附をいただいた方に対し、お礼の品として寄附額に応じた特産品を進呈しています。上記の特産品以外にも様々なお礼品を取り揃えていますので、ぜひふるさと納税を通じて甲州市を感じてみてはいかがでしょうか。



KOSHU CITY EVENT CALENDAR

四季を感じる甲州市ならではのイベントの数々

SPRING

春

3月下旬

こうしゅう桜フェスタ

会場：塩山総合グラウンド

甲州市の春の訪れを祝うイベントです。各種ステージや飲食・物販ブースなどがあり、桜と一緒に春の一日を満喫できます。



4月12日 惠林寺 信玄公忌・武田不動尊祭典「しんげんさん」

武田信玄公の命日に、菩提寺の惠林寺で行われる信玄公を偲ぶ法要とお祭りです。

会場：惠林寺



4月第4日曜日

甲州市ふるさと 武田勝頼公まつり

会場：旧大和中学校校庭

甲州市大和町は武田家終焉の地。武田勝頼公とその一族の靈を慰め、遺徳を偲ぶ「武田の聖地」を象徴するお祭りです。勝頼公軍団出陣絵巻の披露、パレード、甲斐天目山勝頼公太鼓の奉納などを行います。ゲストステージも見ごたえあります。

4月29日

放光寺大黒天大祭 紫燈護摩火渡修行

会場：放光寺

紫燈大護摩、火渡修行にて開運、大福の施財施福の大祭です。



5月5日

大善寺藤切り祭り(関東三大奇祭)

会場：大善寺

役行者役の修験者が神木によじ登って大蛇を形どった藤づる・藤の根を切り落とすお祭りです。藤づるは除災や病気平癒、開運をもたらすとされ、家のお守りとなります。1300年以上も続く、このお祭りは、県の無形民俗文化財、国の選択無形民俗文化財に指定され、関東一円の奇祭の1つと言われています。

SUMMER

夏

6月30日

菅田天神社 夏越祭

会場：菅田天神社

茅の輪をくぐると身が清められ、暑い夏を無事に越すことができるとされています。



7月末～8月上旬

大菩薩夏休みファミリートレッキング

四季を通じてさまざまな表情の大菩薩をガイド付きでトレッキング。家族で新緑あふれる爽やかな自然を楽しみ、夏休みの思い出づくりができます。

8月中

ペルセウス座流星群天体観望会

甲州市内の公園にて、天体望遠鏡や双眼鏡を使用して天体観測を行います。講師の方の解説を聞きながら流星を探します。

AUTUMN

秋

10月第1土曜日

甲州市 かつぬまぶどうまつり

会場：勝沼中央公園

ぶどうの産地、甲州市勝沼では秋の収穫に感謝するイベントを開催。地元ならではのぶどうやワインを楽しめるほか、ステージイベント、パレードや鳥居焼きが行われ、子どもから大人まで1日楽しめるイベントです。



10月下旬日曜日 甲州市およっこい祭り

会場：甲州中央防災広場 塩むすび

「およっこい」とは、甲州弁で「お寄りください」という意味で、毎年10月下旬の日曜日に開催しているお祭りです。地元のお店の味が楽しめる模擬店、そして地元保育園・こども園の園児たちや中学校生徒たちが出演するステージやパレード、さらに餅まきを行う「およっこい上棟式」など、大人も子どもも楽しめるさまざまな催し物があります。



11月3日 かつぬま新酒ワインまつり

会場：勝沼ぶどうの丘

甲州市内のワイナリーができたてのワインを持ち寄り、どこよりも早く新酒ワインを味わえるイベントです。市内のワイナリーがつくる新酒ワインの販売、試飲の提供がされ、ワイナリー巡りをしなくとも、たくさんの飲み比べを楽しむことができます。

11月23・24日

立正寺子安地蔵尊大祭

会場：立正寺

地元では「おこやっさん」という呼び名で親しまれている子安祭りが立正寺で行われています。子安祭りとは、安産祈願、子授け、家内安全、成長を願う伝統あるお祭りです。

1月中旬

一之瀬高橋の春駒



甲州市北部の一之瀬高橋地区に伝わる小正月の伝統行事です。県の無形民俗文化財と国の選択無形民俗文化財に指定されています。現在は実施場所や時期を変え、伝承されています。

1月中旬 藤木道祖神太鼓乗り

会場：放光寺駐車場



甲州市塩山の藤木地区に江戸時代から伝わる小正月の伝統行事です。3基の大太鼓の上に役者が乗り、掛け合いで歌舞伎を演じるというので、甲州市の無形民俗文化財に指定されています。終了後には、演者と記念撮影もできます。

その他のイベント

かつぬま朝市

甲州中央防災広場「塩むすび(えんむすび)」で行われていて、地元の農産物や植物、手づくり品の出店のほか、マッサージ、オークションなどもあります。

えんざん朝市

「およっこいぶらざ七里」と周辺店舗前の軒先で行われています。かつぬま朝市と同日開催、徒步園内なので2つの朝市を楽しむこともできます。

開催日：どちらも毎月第1日曜日(1月を除く)

「わたしと甲州市。」Interview 01

地域の恵みの循環を

Nelk 森山直樹

Naoki Moriyama



木々に囲まれた小さな焼き菓子店「Nelk(ネルク)」。できたての洋菓子の香りが漂う店内には、連日多くの人が足を運びます。店主の森山直樹さんは神奈川県出身で、ご家族とともに甲州市に移住し、2023年にお店をオープンしました。仕事の関係で偶然甲州市に辿り着き、その後独立。運命的な店舗との出会いや、地元の方々とのつながり、そして素材への丁寧なこだわりなど、移住から開業、そしてこれからの展望についてお聞きしました。

—— まずお店の名前の「Nelk」にはどんな意味が込められているのか教えてください。

森山さん(以下、森山) 実は新婚旅行でフランスに行った時、カフェでテイクアウトを頼んだら、店員さんが僕の名前の「直樹(なおき)」を聞き間違えて、カップに『Nelk』って書いていたんです。その響きがなんか良くて。「お店を始めるならこの名前にしよう」と、その時からずっと心の中で温めっていました。

旅ではヨーロッパのバスク地方を廻ったのですが、ここは元々独立した国で、今はフランスとスペインに半分ずつ分かれているんです。独自の言葉もあって、印象深い旅でした。

—— 素敵な旅ですね。甲州市に来ることになったのは、どういうきっかけなのですか。

森山 それまで東京で働いていたお店が、山梨に支店を立ち上げることになって、当初はそこの店長となるべく、開業準備のため移ってきたんです。しかしながら、なかなか開業が進まなくて…。1年ぐらい経った時、「ただ待っているぐらいなら自分でやったほうが早いし、甲州市で自分のやりたいことができるかもしれない」と思って独立しました。とはいっても、お店ができる物件が甲州市には全然無くて。不動産屋さんを何軒も回っても、家賃が高くて広すぎる土地や、飲食不可の場所しかなく、門前払いばかりでした。それでも「ここでやりたい」という気持ちは搖るがなかったです。

—— どうやって現在の場所を見つけたのでしょうか。

森山 そのころ知人が通っていた美容室(お店に隣接している美容室「Antique」)のオーナーさんが、この場所を紹介してくれたんです。それまでは10年ほど空き店舗になっていて、誰にも貸していなかったそうです。実はこの場所は元々建物のオーナーさんの奥様が焼き菓子屋さんをやっていたところでした。お話を聞く際に僕がつくった焼き菓子を持って伺ったところ、先方から「森山くんなら良いかな」と言っていただき、いろいろなご縁を感じています。庭の植物もそのまま残っ

ていて、雰囲気は最初から完成していましたね。半年くらいでオープンできたのもそのおかげです。あとで聞いたのですが、これまでに何人かの開業希望の方を断っていたそうなんです。だから、本当に巡り合せですね。

—— 開業にあたっては補助金も活用されたそうですね。

森山 そうなんです。物件探しの段階で、知り合いから「古民家や物件情報は政策秘書課が持っているから行ってみたら」と勧められて、市役所とつながりができました。その流れで観光商工課の空き店舗対策補助金を利用させてもらったんです。オープン前から市役所の方々に色々と助けてもらつて、本当にありがたかったです。

オープン当初はまだ地域に馴染めるか不安でしたが、「美味しいよ」「また買いに来るね」と声をかけてくれるお客様が一人、また一人と増えていって。気づいたら、市役所の方や近所の方が、気軽にお店の前で立ち話をしてくれるようになりました。今では季節ごとに花の話や、子どもの学校行事の話など、日常的な会話を楽しめる関係ができます。

—— 東京から甲州市に移住して、暮らしのギャップはありましたか。

森山 子育てのしやすさは圧倒的ですね。芝生の園庭や、川のせせらぎがある保育園…。東京の時は保育園の待機児童問題ばかり考えていたけど、こっちは選び放題。自然の中でのびのび育てられます。朝、お店の仕込みをしていると、窓の外から鳥の声が聞こえて、季節の移ろいを肌で感じられる。東京では



森山さんイチオシのお菓子は、ショートクリームとチーズケーキ。注文を受けてからカスタードを詰めるショートクリームはまさにできたての味。なめらかなチーズケーキは、森山さん曰く「ぜひ一度味わっていただきたい」という自信作。



「桜が咲いたね」とニュースで知っていたのが、ここでは店先の桜のつぼみを見ながら感じられるんです。そういう時間の流れの違いが、一番大きいかもしれません。

仕事面では、東京のように新しい情報やトレンドが常にに入ってくるわけではないけれど、その分「目の前の人の笑顔」をじっくり見られるようになりました。例えば、いつも来てくれるお客様が「この前のお菓子、息子に全部食べられちゃって！」と笑ってくれたり、休日に子どもと散歩していたら、お客様のお子さんから「Nelkさん！」と声をかけられたり（笑）。そんな何気ないやり取りが、この土地で生きている実感につながっています。

—— お菓子づくりで大切にしていることも聞かせてください。

森山 “見えない部分”ほど大事にしています。小麦粉やバターも表立って謳ってはいませんが、素材にはこだわっています。卵は黒富士農場さんのものを使ってみたら、ショーキームのカスタードが別物のように美味しいなって。お客様からはいつも「なんか美味しいよね」と言っていただくのですが、その「なんか」は、そうした見えないこだわりの積み重ねなんだと思いま



す。僕としてはお菓子は「特別なご褒美」というより「日常の中に小さな花を添えるような存在」だと思っていて。仕事帰りに買って帰るとか、子どもと一緒におやつを選ぶとか、そんな“いつもの時間”を少しだけ彩るものにしたいんです。

最近では地元の農家さんともつながりが増えてきて、無農薬レモンやルバーブ、すももなどを使わせもらっています。最初は茶色い焼き菓子ばかりだったショーケースも、今では鮮やかになってきて（笑）。地元の果物を使うと、お客様も「この時期が来たね」と季節を感じてくださる。それがすごく嬉しいです。時々、農家さんが余った果物を「よかつたら使って」と持ってきてくださることもあります。そんな風に、地域の人と“食材の循環”が生まれているのも、ここならではだなと感じています。

—— お店のスタッフさんも増えたそうですね。

森山 はい。最初は一人で全部やっていましたが、今はスタッフが入ってくれてチームとして動けるようになりました。インスタグラムで「そろそろ人を雇いたい」とつぶやいたら、熱意あるメッセージを送ってくれた子がいて。その想いが真っ直ぐで、「一緒にやりたい」と思いました。今はお互いに意見を出し合いながら、少しづつお店を育てています。

スタッフが入ったことで、焼き菓子だけでなく、デザートやイベ



ント出店の幅も広がりました。地元のワイナリーやマルシェに呼ばれることも増えてきて、「この土地の味を伝える」というお店の役割が少しづつ形になってきている気がします。

—— 最後にこれからNelkの展望を教えてください。

森山 すばり「廃フルーツ」の活用です。見た目で市場に出せない果物でも、味や香りは抜群。ジャムやピューレ、ドライフルーツに加工すれば価値が生まれます。農家さんの廃棄負担を減らし、お客様には地域らしい商品を届けられる。食品ロス削減、農業支援、お菓子の幅の拡大——。この3つを同時に叶える取り組みとして、地域と一緒に育てていきたいです。

将来的には、そうした余剰果物を受け入れて加工できる小さな工房をつくりたいと思っています。甲州市の果物は本当に豊かで、季節ごとに香りも味も違う。その個性を活かして、洋菓子や加工品として新しい形で発信していき、ゆくゆくは地域の生産者と連携して、観光やギフトの分野にも広げていけたら理想です。

「Nelk」は小さなお店ですが、ここから甲州市の恵みを伝えていけたらと思っています。お菓子を通して地域をつなぎ、日々の暮らしの中に“ささやかな幸福”を届けていく——。そんな存在であり続けたいですね。

Nelk

●山梨県甲州市塩山下於曾1041-2

OPEN : 10:00~18:00

定休日：火、水（不定休あり）

駐車場：2台（Instagramを要確認）[@kashi.nelk](https://www.instagram.com/kashi.nelk)



大切なのは自分に合った役割を見つけること

「わたしと甲州市。」Interview 02

GEEKSTILL



甲州市塩山竹森に2020年に設立されたクラフトジン蒸留所「GEEKSTILL」は、地域資源を活かした循環型のものづくりを行っています。極力地元の素材を活用し、120種類以上のボタニカルを扱うGEEKSTILLのクラフトジン。材料や製法へのこだわり、農家や地域との協働、そして新しい挑戦へ。地域に根ざしながらも世界を見据える取り組みについて、オーナーの岸川さん、スタッフの坂本さん、広報の若月さんにお話を伺いました。



——印象的な外壁で独特の雰囲気がある空間ですね。この場所のこだわりはどういったところでしょうか。

岸川さん（以下、岸川） ここは元々金属加工のアッセンブリ（組立）工場で、中はヤニで真っ黒。資金が限られていたので自分で整えました。残った傷跡は「味」として活かしつつ、清潔感を大事にしたシンプルな内装に仕上げています。外壁のアートは、友人であり世界的に活躍しているアーティスト「HITOTZUKI」にお願いしました。この場所で感じたものを



形にし、背後の山の稜線とつながるように描かれていて、景色と一体化しているのが気に入っています。友人が関わってくれると、こちらも手を抜けない（笑）。そういう存在があることで自然と責任感が強くなりますね。

——岸川さんがクラフトジンを始めた経緯を教えてください。

岸川 実家は金属加工部品製造業をやっていて、農業とは関係がありません。しかし、僕自身は甲州市にいて農業に関心があり、ぶどうの苗木屋を営んでいました。その仕事を通じて全国のワイナリーとつながり、「岸川さんもやってみたら?」と声をかけてもらつたんです。ただ、山梨はワインがすでに飽和状態。そこで競合がない分野を探し、ジンにたどり着きました。ジンをつくりたかったというよりも、「誰もやっていない分野を選んだ結果」なんです。

——誰もやっていない分野を選んだ岸川さんだからこそ、ジンの製法や素材にもこだわりがみえますね。

岸川 そうなんです。通常のジンは複数のボタニカル（植物）

を一度に蒸留しますが、僕たちはボタニカルごとに蒸留しています。それぞれの香りを最大限に抽出し、後からブレンドすることで微調整が可能になり、立体感のある香りを実現しました。立ち上げ当初は「どうやってこの香りを出しているのか」と他の蒸留所が見学に来たほどです。

現在は120種類ほどのボタニカルを扱い、試験蒸留は1200種類を超えてます。山に入って自分で採取したり、農家さんから規格外や落果した果物を譲ってもらったり。「もったいない」という気持ちで始めましたが、農家さんにとっても出荷できないものが活かされることで少し気持ちが救われるのではないかと思っています。

屋号の「GEEKSTILL」には、「GEEK（オタク・マニアック）」のように徹底的にこだわり抜いてやる、という思いを込めました。

——まさに唯一無二のクラフトジン。暮らしやチームづくり、お店のプロダクトについて教えてください。

坂本さん（以下、坂本） 2025年から正式にGEEKSTILLに加わるにあたって、丹波山村から甲州市に移住しました。まだ蒸留には携わっていませんが、まずは現場を徹底的に整えることから始めています。食に関わってきた経験を活かして、パッケージやイベントなどのアイデアを出しています。「自分だからできること」を突き詰めていきたいです。

岸川 将来的には僕が素材を採り、彼女が蒸留を担当するような形にできればと思っています。チームの基本は「隠し事をしないこと」。小さなことでもオープンにして共有しています。地域とのつながりの一つとして、福祉作業所にアルミキャップの加工やラベルのカットをお願いしています。コロナ禍で「作業があって助かる」「任せてもらえて嬉しい」と聞き、定期的に依頼するようになりました。

また農家さんやワイナリー、クラフトビールの会社が近くにあるからこそ連携もあります。ワインの搾りかすを提供してもらったり、逆に使用後のボタニカルを提供したり。甲州市なら

ではの“ミックスアップ”をもっと広げていきたいですね。

若月さん（以下、若月） 私は広報を担当しています。商品の背景には一つひとつストーリーがあるので、まず岸川さんに丁寧にヒアリングし、自分でもテイスティングしたうえで、消費者の視点で発信しています。メルマガやプレスリリースを打ち始めてからメディア露出も増え、問い合わせも多くなりました。

—— チームだからこそできることが増えてきていますね。みなさんの今後の展望をお聞きしたいです。

岸川 世界的にノンアルコールへの関心が高まっており、「ノンアルはないんですか？」とよく聞かれるので、ソルダムや貴陽を使ったリキッドフルーツシロップをリリースしました。桃一つとっても品種が多いので、品種ごとの商品展開をしていきたいですね。また、蒸留は廃棄を減らす可能性を持っています。賞味期限切れのビールやワイ

ンからアルコールを再生したり、一度使ったボタニカルをルームフレグランスやアロマキャンドルに活用したり。結果的に工房から出る廃棄物はほとんどないので、持続可能な小規模ものづくりの理想形を追求していきたいです。

坂本 移住してきて実感するのですが、山梨は本当に良いところで、10年後に「山梨ってすごい！」と誰もが言えるようになってほしい。その一端を担えたらと思っています。

若月 「体験の場」をもっと広げていきたいです。先日は都内のバーでルームフレグランスを蒸留し、その場でジンを楽しんでもらうイベントを行いました。こうした「飲み手に直接会いに行く」機会を増やしていかなければ良いですね。

—— 最後に、これから地域に密着した暮らしや仕事に挑戦してみたい方へ、みなさんからメッセージをお願いします。

岸川 若い頃はいろんな場所で仕事をしましたが、結果的に

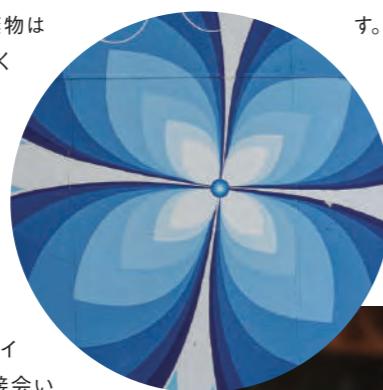


ここに居を構えました。甲州市は癖（笑）がある地域かもしれません、良い人が多い。難しい顔をしているおじいちゃんも、話すと別人のようになる。話が長くて大変なこともありますけど（笑）、とにかく何でも話してみることです。そこから自然に活動

の幅が広がります。地元の人は「おせっかい」ですが、悪意はありません。素直に受け入れて前向きにとらえれば、暮らしまで仕事も楽しくなります。この土地に育ててもらった分、恩返しをしていきたいという気持ちが今の原動力です。

坂本 移住者の強みは“しがらみがない”こと。地元の人にとって当たり前すぎて気づかない価値に目を向けられるのは、外から来た人だからこそです。ただ、その土台には地域の人への尊敬が欠かせません。続けてくれたからこそ、私たちは挑戦できるのです。挑戦したい方も、まずは「学ばせてもらう」という気持ちで関われば、自然と道が広がると思います。

若月 甲州市は資源が豊かで、生活コストも低く、都内にも近い。小さく始めたい人にとってとても良い環境です。大切なのは自分に合った役割を見つけること。ものづくりに関わる人、伝える人、支える人、それぞれの立場で挑戦できます。これを新しい挑戦が常に生まれる場所にしているければ、地域はもっと豊かになります。そんな未来を一緒につくりたいなら嬉しいです。



ラベルのデザインは岸川さんが手掛ける。「60～70年代のカルチャーが好きで、サイケデリックな線やビビッドな色使いが根柢にあります。サブカル寄りのデザインの仕事をしていたこともあって、その流れが自然と出ています。手描きでパソコンで調整するスタイルでやっています。」

GEELSTILL

●山梨県甲州市塩山竹森444-1 TEL: 0553-34-8337
<https://geekstill.com> 



KOSHU COLUMN
Local Art Event

大菩薩

の風

甲州市・大久保平に根づく、暮らしと表現の風景

なぜ大菩薩にアーティストが集まるのか？



about

大菩薩の風ビエンナーレ

2025年開催概要：5/22(木)～5/28(水) 10:00-17:00

山梨県甲州市塩山上萩原大久保平各会場にて

 [daibosatsu_biennale](https://www.instagram.com/daibosatsu_biennale/)

「大菩薩の風ビエンナーレ」は、甲州市の大久保平地域を舞台に、2年に一度開催される芸術祭です。自然の中に点在する空き家や小屋、古道や川辺などを展示場所として活用し、アーティストが作品を通じて土地の記憶や未来を描き出します。名称に込められた「風」は、土地を吹き抜ける自然の風と、人と人、表現と場所を結ぶ目に見えないつながりを象徴しています。作品は地域住民や訪問者との関わりから生まれ、鑑賞者に“暮らしのなかにあるアート”的可能性を投げかけます。

甲州市塩山の大菩薩嶺の山あいにある「大久保平」^{おおくぼだいら}と呼ばれていた地域に、今静かに人が集まりつつあります。かつては別荘地として開発され、バブル期には“第二の清里”を目指す構想もあったこの地。今では木々に覆われた山林と空き家が点在する静かな集落ですが、近年、アーティストや音楽家、移住者たちが少しづつこの地に集まり、独自の文化の芽を育んでいます。甲州らしいふでは、その文化の発信基地となるカフェを営む井上啓子さんと、アートと生活の融合をこの地に根付かせたアーティストの磯田功さんのお2人にお話を伺いました。

※塩山上萩原地区の小地名で大菩薩嶺の南に続く日川尾根の延山から西側の重川に向かって広がっている地域

井戸を掘つて始まつた
カフェと表現の交差点



Natural Cafe

●山梨県甲州市塩山上荻原3127
TEL: 0553-34-8334
営業日: 水・木・金/11時半~16時
土・日/11時半~18時
定休日: 月・火 駐車場: 10台
<https://natural-cafe.sunnyday.jp>
@natural_cafe_koshu



2017年、夫婦で一から開拓した土地にカフェを開いた井上啓子さん。最初は水道もない原野のような場所でした。

「眺めが良くて、ここなら住めるかもしれないと思ったんです。井戸を掘つて、週末ごとに木を切つて、草を刈つて、道をつくつて……少しずつ"ここ"が出来上がっていきました。」

やがて生まれた「Natural Cafe」は、暮らしの延長線上にある小さな交流拠点となり、地域で開催されるアートイベント「大菩薩の風ビエンナーレ」とも自然に繋がつてきます。最初は食事の提供だけだったはずが、いつしか「ここが総合案内所ですね」と言われるようになり、気づけば事務局的な役割も担うようになります。

「うちはカフェとして年中開いているので、自然と人が集まるようになつただけなんです。」

カフェでは、月に一度大菩薩の風の出展者が集う「茶話会」という自由な語りの場も開かれています。テーマを設げず、集まつた人々がその場で話したいことを話す時間。それが新しい作品の種になつたり、地域との関わりを深めるきっかけになつたりもしています。

「若い世代も増えてきて、世代交代と交流が自然に進んでいるような気がしますね。」

文化が自然と生まれる「風土」

9月には音楽イベント「キツネッ原festa」も開催され、いろいろなジャンルの音楽の生演奏が山に響きます。

「自然の中で音を出せるから、演奏者も気持ちが良いんですよ。」来場者の多くは県外から。移住希望者が物件を探しに訪れるケースも多く、井上さんのカフェには「この辺りに住めませんか?」という相談も絶えません。

「空き家は多いけれど、水道がなかったり登記が曖昧だったり。でも、それでも"住みたい"って言ってくれるのは本当に嬉しいです。」地域の中に立ち、さまざまな役割を果たす井上さんに、「大変じゃないですか?」と尋ねると、こんな答えが返ってきました。

「困難? ないです。楽しんでますから!」

ビエンナーレも、カフェも、音楽も、暮らしちゃ——

続ける秘訣は「楽しめるかどうか。」その率直さが、訪れる人々の心をふつと軽くしてくれます。



アーティストの憩いの場として親しまれている「Natural Cafe」。大菩薩ビエンナーレ開催中は特別なセットメニューを提供。来場者の心もお腹も満たしてくれる。鹿肉を使ったハンバーグが絶品!



マイナス10℃から始まつた
木工と畑とアートの暮らし

「土地の再生」としてのアート

磯田さんの目指すところは明確です。

「アートは手段であつて、本当の目的は荒れしていくこの土地の再生ですね。」

かつて、声をかけば山の上の家から返事が返つてくるような人の営みがあった地域。今では草に覆われ、静まりかえる土地に、もう一度人の気配と手が入ること。

その"入口"として、アートや音楽、農業といった活動が機能しています。外から人を呼び、自然に触れてもらい、体験を通して自分の土地に何かを持ち帰つてもらう——。

磯田さんはそんな「関係人口」の育成を大切にしています。

「神奈川からでも甲州市へは車で1時間半。移住じゃなくとも、月に1回畑を手伝うような関係で良いんです。それが地域を支えてくれるのではないか。」

井上さんと並んで、大久保平の文化的風景を語るうえで欠かせないのが、35年前からこの地に暮らす木工作家・磯田功さんです。雑誌『田舎暮らし』を片手に場所を探していた磯田さんが、この地を選んだ決め手は「音を出しても大丈夫なこと」でした。

「八ヶ岳方面も見ましたけど、周囲に家が多くてね。木工の音が気になるだろうからやめたんです。」見つけたのは、まだ誰も住んでいない開発直後の土地。母屋の柱だけが立つてゐる状態で、冬はテント暮らしからのスタートでした。

「11月に雪が降つて、マイナス10℃。寒かったですよ。」その後、工房をつくり、周囲の荒れた畑に目を向け、農業へ。さらに気候変動を受けて、ワイン用ぶどうの栽培にも挑戦。自家製のそば粉でガレットを焼き、イベントでふるまう姿もこの地の風物詩となっています。

「(そば粉は)焦がしても美味しいからね。皮つきのそばが特に美味しいんです。」

磯田さんが製作された木工作品の数々。ギャラリーには地元の方のアート作品も展示され、地域とのつながりを感じます。



大菩薩の風ビエンナーレ 2025 出展作品「傷ついた船」について



大菩薩の風ビエンナーレに今回初参加した木工作家のイトウタカシさん。イトウさんは「自然と人工の狭間にあつたこの土地に強く惹かれた」と語ります。展示場所に選んだ川辺は、かつて國の手によって造成された場所であり、今では人の手が届かなくなりつつある「山へ還る」風景。その人工自然の中に作品を置くことで、時代や価値観の揺らぎを視覚化しました。出展作「傷ついた船」は、大きな造形物が一本で揺れ動くという不安定さを表現したシリーズ。地震や災害、あるいは家族や社会の喪失——"動かないはずのものが動く"という恐怖や希望をテーマにしています。「安定と変化。どちらも人を揺さぶるもの。アートはその揺らぎを見せる装置であつてほしい」とイトウさん。個人の体験や記憶を出発点に、社会の構造や人間関係への問い合わせを投げかける作品が、静かに観る人の心を揺らしていました。

自分の手で耕す
もう一つの
ふるさと

大久保平は、計画的に整えられた芸術村ではありません。誰かの意志ではなく、「ここで暮らしたい」という想いと、「この土地を生かしたい」という実践が、静かに重なつてできあがつた場所です。表現と暮らしがにじむこの地では、誰もが「参加者」として歓迎されます。畑を耕す手も、木を削る音も、そば粉の香りも、音楽も、すべてがこの場所の"表現"となつていて——。ここには、都市にはない「もう一つの生き方」が、確かに息づいています。

東京から甲州市へ移住して3年目。大石雄樹さん（ITエンジニア）と敦子さん（WEBデザイナー）ご夫婦は、ワインと青空に惹かれて2022年から甲州市で暮らし始めました。畑で桃やぶどうの収穫を手伝い、登山を楽しみ、仕事の間にまちを散歩する。自然体で心地良い暮らしを楽しむお2人の、甲州市ならではの日常の様子を伺いました。



夫婦で歩む、甲州での暮らし



— 移住のきっかけを教えてください。

雄樹さん 言い出しちゃ僕ですね。移住を考え始めた時、有楽町の東京交通会館にある移住相談センターで情報収集をしました。山梨か長野で考えていたんですが、当時東京の府中市に住んでいたので中央線が身近で。「それなら東京の会社へのアクセスも便利な山梨かな」と。

敦子さん 最初は山梨市や笛吹市、北杜市、富士吉田市も候補でした。夫婦で温泉好きなので、石和温泉周辺の物件もチェックしましたが…。

雄樹さん その物件はタッチの差で逃してしまいました（笑）。東京に近い上野原市や小菅村も候補でしたが、最終的には彼女の意見を尊重しました。

敦子さん 実は私、ワインが好きでソムリエ資格も持っているんです。そのこともあって、甲州市を密かに推していました。やっぱりワインといえば甲州ですから。

雄樹さん 妻の希望を反映させて甲州市に決めて、その後何度も旅行で訪れて、まちを歩いてみた時に「ここ、良いな」と確信しましたね。

よく2人でシェアオフィス甲州に出かけ、仕事をしています。休憩時間には「次の休日はどこの山に行こうか？」と相談することも。

— 住み始めてからギャップはありましたか？

敦子さん 強いて言うならですが、東京と大きく違うのは飲食店が早く閉まるこことでしょうか。旅行の時にも気になり、移住前から「ここでの外食は大変かも」と思っていました。でも、それ以外は意外と不便じゃなかったです。むしろ「お店がやっていないから、家でつくろうか！」となるので、かえって健康的になったかもしれません（笑）。

雄樹さん 身体には確かに良かったと思います。

敦子さん それから虫！ 絶対にたくさんいると思っていたのに、意外と少ない。一度、玄関にいた大きな蛾にびっくりしたくらい（笑）。近所付き合いもそうですね。最初は「移住者だから、地元住民の方とは距離があるかな？」と不安でしたが、全くそんなことはなく！ 道を歩いているだけで野菜や果物をいただくなど、想像以上にあたたかかったです。それから一番のギャップは「よく眠れること」！ 東京では寝つきが悪かったのに、甲州市に来てからはすと睡れるようになりました。

— 生活面で変わったことはありますか？

敦子さん 運転ですね。私はペーパードライバーでしたが、甲州市では車が必須。必死に練習しました。今では普通に運転ができるようになったので、生活の幅が広がったと実感しています。

— お仕事のスタイルに変化はありましたか？

雄樹さん 僕の仕事はITエンジニアなので、在宅勤務が基本なんです。ただ、家だけだとどうしても煮詰まってしまうので、「シェアオフィス甲州」を利用しています。こちらは24時間開いているので、深夜や早朝にも使って助かります。

敦子さん 私のWEBデザインの仕事も、基本どこでもできるので、夫とともにシェアオフィスに行くこともあります。シェアオフィス甲州は屋上があるので、気軽に気分転換ができるのも良いですね。甲州市は晴れの日が多いから本当に気持ち良いです。

雄樹さん シェアオフィスで顔を合わせた人と世間話するだけでも気分転換に。会社とも違う、自宅とも違う空間で、ちょうど良い環境ですね。

— 移住後の趣味はなんでしょうか？

敦子さん 私たちは散歩が好きなんです。シェアオフィスにいる時も、仕事の合間に近所を歩いたり、時には「ぶどうの丘」まで足を延ばしたりします。空が広くて、歩くだけで気持ち良いんです。その後、私はワインを飲んで、夫が運転して帰るという（笑）。温泉も最高です。東京では「旅行で行くもの」だったのに、ここだと300円からふらっと行ける。日常に温泉があるって贅沢すぎますよね。

雄樹さん あと、登山にもよく行きます。今も、次に登りたい山をリサーチ中です。

— お2人は農作業のお手伝いもなさっているとか。

敦子さん 知人のSNSで偶然「畑のお手伝い募集」の投稿を見かけて、勢いで応募しました。

雄樹さん 楽しそうだったので僕も付いてきました。畑作業は初めてでしたが、普段PCに向かってばかりなので非常に新鮮で、自然の中で体を動かすのが気持ち良かったです。

— 地域とのつながりはありますか？

雄樹さん シェアオフィスで知り合った人にイベントやお祭りに誘っていただくこともありますね。気づいたら地域に馴染んできたかな、と感じます。

敦子さん ご近所を歩いているだけで「ナスやキュウリ」を渡された時は衝撃でしたね。都会じゃ絶対ない（笑）。「ちょっと形が悪いから」とか「お口汚しだけど」なんて言ひながらくださって。本当にありがたいし、美味しいんです。最初の不安がうそのように人のあたたかさを感じる毎日です。

— 今後は甲州市でどのように過ごしたいですか？

雄樹さん そうですね…。甲州市に来たからには、何かしら功績を残したい、というのがありますね。まずは、自分主催の「無尽*」かな。密かに計画しています。

敦子さん 私は畑作業や地域のお祭りに引き続き参加したいですね。移住を始めた時と同様に、今後も無理せず、でも着実に暮らしを育てていきたいな、と思っています。

*無尽…古くは互助扶助の民間金融制度だったものが、いつしか定期的な「飲み会」や「旅行」などに変わってきました。月に何本も無尽をかけ持つ人もいます。



甲州市から車で1時間程かけて北杜市の編笠山へ。「高速道路の運転＆登山を頑張りました！」（敦子さん）



農作業の手伝いの時の休憩中の一コマ。「見渡す一面、緑で最高に気持ち良かったです。良いリフレッシュになりました。」（雄樹さん）



隣の山梨市の万力公園での散歩風景。自然の多いところに移住して、趣味の散歩がますます好きになつたのだそう。



Interview

甲州市アグリトレーニー

小山友輝

Tomoki Koyama

“幸せ”は、ぶどう畠の中に 移住して見つけた新しい生き方

甲州市では、主力産業である果樹農業の担い手を育成するため、地域おこし協力隊制度を活用した「アグリトレーニー制度」を設けています。3年間の研修で受入機関である株式会社あぐりフルーツから技術を学び、生活費や住居補助、農機具の貸与などの支援を受けながら、耕作放棄地の増加や担い手不足といった地域課題の解決に取り組む仕組みです。研修後は自ら携わった畠を引き継ぎ、農家として独立することも可能です。この制度を活用して昨年移住したのが、福岡県出身の小山友輝さん（26）。旅の途中で甲州市のぶどう畠に魅了され、今は独立を見据えて畠に向かっています。

— ご出身はどちらですか？

小山さん（以下、小山） 福岡県大野城市で生まれ育って、大学から水産を学ぶために鹿児島に行きました。その後、食品系の商社で1年間営業職をして転職し、IT系のベンチャーで1年半ほど働いていました。その後、仕事を辞めて日本一周の旅に出ました。

— 旅に出ることになったきっかけはなんでしょう？

小山 ずっと「旅がしたい」と思っていて、仕事を辞めた時に「今しかない」と思い、あまり深く考えずに旅に出ました。軽バンをDIYで寝泊りできるように改造して、一人で日本一周の旅へ出ました。ルートは九州、四国、岡山を通って太平洋側を北上して、北海道から日本海側を通って帰ってきましたね。およそ3～4か月かけて全国を旅しました。

— その旅の中で農業に出会ったのでしょうか？

小山 そうなんです。山梨には6月中旬あたりに来たのですが、その時ちょうどぶどうの作業の繁忙期で。その時、あまりお金がなかったので、旅の資金を稼ぐための日雇いバイトをしようと思って農作業をしたのがきっかけです。そこで触れた農作業が思っていたよりも楽しくて、そこから農業自体に興味を持ち始めました。なかでも甲州市でぶどうの摘粒作業をした時は、なんだか「幸せ」を感じたんです。その時に出会った農家さんがすごく優しくて、結果的に3週間滞在してお手伝い



しました。旅の中で一番長い滞在が甲州市でしたね。

— 甲州市を選んだ決め手はなんですか？

小山 最初は山梨に住むなんて考えてもいなかったのですが、旅の途中の農作業の経験から、「ぶどう（づくり）をやりたいな」と思って。いくつかの地域を比較しましたが、やっぱり「日本でぶどうといえば山梨」だと感じて、一流の場所で本物を学びたいと思って甲州市に決めました。

— 地域おこし協力隊になったきっかけを教えてください。

小山 甲州市に住み始めて、塩山の松里と呼ばれる地域で農作業のバイトをしていたんです。その時に「ゆくゆくは新規就農したい」と周囲に話したら、「アグリトレーニー」という地域おこし協力隊の制度があると教えてもらいました。すぐに市役所に行って相談して、お試しで2泊3日滞在して、桃農家の作業を体験。その時に「ずっとここ（甲州市）でやっていきたい」と決めました。

— 地域おこし協力隊ではどんな活動をしていますか？

小山 ぶどうと桃の作業を中心に、農作業を学んでいます。任期は3年間で、退任後には独立して就農することを目指しています。

— 印象に残っている体験はありますか？

小山 ぶどうの形を整える摘粒作業ですね。元々、摘粒作業は好きでしたが、ピッテロビアンコの摘粒作業はものすごく難しかったですね。粒が多くて時間がかかるし、どの粒を抜こうか悩むんですよね。でもその経験のおかげで、今年のシャインマスカットの摘粒は、「見え方が変わった」と感じるくらいはかなりました！ぶどうが育った時に「これが小山くんが整えたぶどうだよ！」と言われた時は、感慨深いものがありましたね。

— それは嬉しいですね。市の支援制度など、助かっていることはありますか？

小山 新規就農のネックはとにかくお金がかかることが多いのですが、地域おこし協力隊の制度はかなり手厚くて助かっています。生活費と、研修費（家賃補助含む）があり、軽トラや農機具もリースで使えます。農地探しも、市やあぐりフルーツが協力してくれるので、非常に心強いですね。

— 甲州市での暮らしや農業をしている日の一日はどのような感じですか？



小山 繁忙期は朝4時起床。朝も早くから夜まで、19～20時ごろまでヘッドライトをつけ作業することもあります。作業はぶどうのつるの剪定や摘粒、収穫など季節ごとにやることが変わるもの



で、大変ですが毎日が新鮮に感じます。一方で農閑期や雨の日は、地元の飲食店にごはんを食べに行ったり、家でのんびり過ごしたり。体を休めつつ、次のシーズンに備えます。

「今日ここまでやる」と決めた作業をきっちり終えられた時にはやりがいを感じますね。黙々と作業をする時間も好きですし、みんなでわいわい働く時間も楽しいです。

— 地域での関わりや、甲州市の魅力を教えてください。

小山 地域のイベントにも積極的に参加しています。塩山駅前のビアガーデンでは焼き鳥を焼いたり、塩山の下柚木地区では耕作放棄地の開墾を手伝ったり。河川清掃のあとに地域の方々とご飯を食べながら交流することもあります。農家さんを手伝うと野菜をいただくことが多く、人とのつながりを日々感じます。

甲州市は「ふとした瞬間の風景」が本当にきれいで、雨上がりの空や、朝夕に見える山と畠の景色には今でもよく感動します。元々海派でしたが、今では山のある景色が好きになりました。冬の寒さと乾燥はきつかったですが、地域の方や支援機関のあぐりフルーツの皆さんに助けられて乗り越えられました。

— 今後の目標、そして地方で農業を始めた人へのメッセージをお願いします。

小山 まずはぶどう農家として独立することが目標です。接客するのも好きなので、甲州市のぶどうをもっと多くの人に知つてもらえるよう、県外のマルシェ出店などにも挑戦したいですね。

地方で農業を始めたと思っている人には「自分から行動すること」を伝えたいです。最初は隣の畠の人にはいさつする、そんな小さな一步でいい。そこから少しづつ関係が広がっていくと思います。



甲州で育てる、甲州で暮らす

Growing and Living in Koshu City

海外出身パパたちのリアルボイス

—内モンゴル、スロバキア、南アフリカ—
母国から遠く離れたこの地を暮らしの拠点に選んだ3人のパパたち。母国との違いに時には驚きながらも、ここでの暮らしに魅力を感じ続ける日々を送っています。今回は「甲州市だからこそ味わえる暮らし」について、本音を語り合ってもらいました。



—皆さん、普段のお仕事はどんなことをされていますか？

トマスさん（以下トマス） 普段は甲州市の学校で英語を教える仕事をしています。小学校や中学校の外国語指導助手（ALT）ですね。それ以外にも陶芸の仕事をしています。デザインしたり、移動式サウナをつくりたりもしています。

シェルトンさん（以下ドン） 僕も同じく小学校で英語を教えています。普段は塩山南小学校にいます。

ハンさん（以下ハン） 私は甲州市勝沼の菱山という地域にあるぶどう園で働いています。元々、料理とお酒が好きで、会社では加工やワイン醸造に関わることもあります。最近、家で日本ミツバチを飼い始めて、趣味で蜂蜜づくりもしています。

—皆さん、奥様が日本人とのことですが、家族構成を教えてください。

ハン 家族は4人です。妻と、子どもが2人。女の子と男の子です。上の子は8歳の小学生で、下の子は5歳で保育園に通っています。

トマス うちも妻と子どもが2人。娘が13歳で中学2年生、息子は9歳で小学3年生です。

ドン 私の家族も4人。妻と2人の息子がいます。上の子は10歳で小学校に通っていて、下の子は5歳で幼稚園に通っています。

お話を伺った人

ハン・ダーフーバーヤーさん

中国内モンゴル自治区出身／来日して10年／甲州市に住み始めて10年／勝沼在住

—どうして甲州市に住むことになったのですか？

ハン 妻の故郷が甲州市で、自分も一緒にきました。ここで暮らす決め手になったのは、食べ物の美味しさですかね（笑）。ぶどうや桃、ブルーベリー、スイカ…美味しいものがたくさん。最近はクラフトビールにハマっています。山梨のビールは美味しいですね。

トマス 僕の場合は、茨城に住んでいた妻の家族が甲州市に引っ越ししてきたのがきっかけですね。その縁で甲州市にやってきて、山に囲まれた景色を見て、「ここに暮らしたい！」と思ったんです。

ドン 私は仕事の関係で板木にいたのですが、もっと子育てに良い環境を探していました。そうした中、甲州市で英語教員の仕事を見つけ、その縁でここにきました。山がすぐ見えること、自然が近いことが大きな理由です。実際に来てみると、まちは良い感じにコンパクトで、住みやすいと感じています。

—甲州市での子育てはどう感じていますか？

トマス It's safe for kids.（子どもにとって安全なのが一番です）。学校にも自分で歩いて行けるし、帰りも安心。スポーツや習い事もたくさん選べるのが良いですね。私も子どもと一緒に空手をやっています。

ドン 自然が近いので、子どもが公園に行ったり虫を捕まえたり、神社で遊んだりできる。外で自由に遊ぶのはありがたいことだと思います。市役所前の塩む

すび（防災広場）はよく行きますね。

ハン 母国だと学校まで遠いので、車やバイクで送る必要があります。日本は学校が近いから、子どもが自分で歩いて通える。それはとても安心ですね。あと、体験授業が多いのも良いですね。先日は娘と稻作体験をしました！

—子育ての面で母国との違いを感じることはありますか？

ドン 日本の部活と南アフリカの部活は全然違いますね。南アフリカでは夏と冬でやるスポーツが変わります。春夏はサッカー、秋冬はクリケットなど、季節ごとに変わることです。

トマス 給食は大きく異なりますね。スロバキアにも給食がありますが、学校のキッチンでつくって大きな食堂で食べます。日本の給食は仕組みからして違いますね。

ハン 中国の小学校では給食はなくして、各自でお弁当を持っています。あと、私の故郷は砂漠が多いので、学校まで徒歩で何時間もかかります。そのため、小学校のうちから宿舎や学校のそばの家に下宿する子もいます。甲州市は学校が近くで便利ですね！

—生活していく中で地域との関わりはありますか？

ハン 私は地域の人に誘われて消防団に入りました。たまに夜中に呼び出しがあって出動することもあります。最初は驚きましたが、地域の一員としてやっていこうと思っています。

トマス 地域の祭りが大好きです。太鼓の音を聞くと、とってもエキサイティング！よっちょい祭りなど、子どもと一緒に毎年楽しみにしています。



ヒノキキューブを使って移動式茶室も作成。体験会などのイベントも企画しています。



家族と一緒に塩ノ山に登りました。ここから眺める甲州市の街並みがお気に入り。

ドン 地域の人が子どもたちに声をかけてくれるのが良いですね。子どもたちを安心して外で遊ばせられる環境だと思いますよ。

—これからの暮らしの展望はありますか？

トマス 気軽に飲みにいける文化がもっと広がったら良いなと思います。スロバキアでは“Let's go for one!”（ちょっと一杯行こう）が日常なんですが、日本ではあまりないので少し寂しいです。

ドン 僕は、これからも甲州市で安定して暮らしていきたいです。子どもが安心して学べる環境があるのはとてもありがたいので、仕事が続いてくれれば良いですね！

ハン 仕事だけでなく、趣味や好きなことの時間を充実させたいです。今は、家のDIYとミツバチの飼育が生きがいです。

—甲州市に住みたいと考えている人にメッセージをお願いします。

ハン 甲州市は山に囲まれていて、景色も食べ物も素晴らしいです。ぶどうや桃、ワイン、ビール、温泉もある。とっても住みやすい場所ですよ。

トマス 最初は日本語がわからなくて苦労しましたが、地域の人は親切です。困ったら助けてもらえる。だから安心してください！

ドン Respect the harmony.（調和を大切にしてください）。甲州市には“和”的空気があります。日本語を学んで、地域の人と関わるとより楽しく暮らせます。



KOSHU CITY LIBRARY

歴史・文化・子育て — それぞれの魅力がつまつた図書館たち

甲州市には、歴史ある建物を活かしたものや、ワインの資料が充実したもの、親子で楽しめるものなど、特色豊かな図書館が点在しています。館内では読書スペースや展示コーナーの工夫、地域資料の収集などが行われ、季節ごとのイベントやワークショップも盛んです。誰もが気軽に訪れ、学びや交流を楽しめる場として親しまれている、甲州市の図書館の魅力を紹介します。

勝沼図書館

勝沼のワインとぶどうの歴史がここに集約



勝 沼図書館の魅力は、ワインのまちならではの「ぶどうとワイン」に関する資料が非常に充実しているところ。専門書や古書、ワイナリーの記録、研究資料まで幅広く収蔵し、地域の歴史・産業・文化としてのワインを深く知ることができます。毎年秋には「ぶどうとワインの資料展」を開催し、時代ごとのワイン造りの変遷や地域の歩みを紹介。勝沼のワイン文化を身近に体感できる場として評価され、2018年には「Library of the Year」最優秀賞とオーディエンス賞を受賞しました。

また、子ども向けの読書クラブ「カムカムクラブ」や読み聞かせイベントもあるので、親子で楽しめる図書館として親しまれています。夏の恒例イベント「夜のおばけ図書館」も人気で、暗い館内を探検しながら本と出会うユニークな仕掛けが魅力。館内には児童コーナー、新聞雑誌コーナー、学習席も整い、隣接する「ぶどうの国文化館」とあわせて楽しめるスポットです。

主なイベント



- ・ぶどうとワインの資料展（毎年秋）
- ・カムカムフェスタ（毎年11月）
- ・おばけ図書館（夏休み恒例）
- ・カムカムクラブ（通年／小学生向け読書クラブ）
- ・読書アニメーション（通年／学校巡回）
- ・季節の読書イベント（通年）

Information

- 場所／甲州市勝沼町下岩崎1034-1
- TEL／0553-44-3746
- 開館時間／火～金 午前10時～午後7時
土・日・祝 午前10時～午後5時
- 休館日／毎週月曜定休・月末整理日・祝日の翌日 月曜が祝日に当たる場合は定休優先
- https://www.lib-koshu.jp/about/lib_katsunuma/

塩山図書館

交流を生む読書イベント「ビブリオバトル」が熱い！



主なイベント

- ・知的書評合戦ビブリオバトル（年3～4回）
- ・おはなし会（月1回）
- ・夕涼みおはなし会＆肝試し（7月）
- ・夏休み工作ワークショップ（7月）
- ・大人のためのペーパークラフト教室（不定期）

塩 山図書館では、本をきっかけに人と交流できる読書イベント「ビブリオバトル」を定期開催しています。観客の投票で「チャンプ本」を決める参加型の書評ゲームで、継続的な取り組みが評価され、2024年には「Bibliobattle of the Year」大賞を受賞しました。他にもさまざまなイベントが開催されており、読書を楽しむ文化づくりに力を入れるなど、世代をこえて気軽に立ち寄れる図書館として親しまれています。

Information

- 場所／甲州市塩山上塩後240 ●TEL／0553-32-1505 ●開館時間／月・水～金 午前10時～午後7時 土・日・祝 午前10時～午後5時
- 休館日／毎週火曜日定休・月末整理日・祝日の翌日（火曜が祝日に当たる場合は定休優先） https://www.lib-koshu.jp/about/lib_enzan/

甘草屋敷こども図書館

文化財の中にある特別な「こども図書館」



塩 山駅北口の重要文化財「旧高野家住宅 甘草屋敷」敷地内にある甘草屋敷こども図書館は、昔から読み継がれてきた絵本が並ぶ、親しまれた図書館です。毎月第1木曜には「絵本くらぶ」によるわらべ歌や手遊びの読み聞かせ会を開催。春と秋のパークライブラリーでは庭のテントやハンモックで自然の中の読書を楽しめます。館内の蔵では季節展示を行い、子どもたちから大人気です。

主なイベント



- ・乳幼児向けお話会「絵本くらぶちびっこおはなし会」（毎月第一木曜）
- ・蔵を利用した企画展（年3～4回）
- ・お庭を巡るパークライブラリー（春と秋）
- ・工作教室やミニお話会等（不定期）

大和図書館

「武田のふるさと」を本でめぐる



大 和図書館は「武田家滅亡の地」にあり、武田勝頼公や武田家に関する資料が豊富です。館内の「武田コーナー」では、ここでしか見られない貴重な本も揃い、毎年4月には「武田勝頼公祭り」に合わせた図書展が行われます。また、大和は「そばきり」発祥の地もあり、そばの資料も充実。ボランティアグループ「マジックポッケ」による紙芝居やおはなし会といったイベントも人気です。

主なイベント



- ・武田勝頼公図書展（春）
- ・図書館ボランティア マジックポッケ（毎年3月）
- ・コワモ(たの)おはなし&映画会（初夏）

●場所／甲州市大和町初鹿野1693-1 ●TEL／0553-48-2921（大和ふるさと会館） ●開館時間／火～日 午前10時～午後5時 ●休館日／毎週月曜日・祝日定休・月末整理日 大和ふるさと会館の休館に準ずる https://www.lib-koshu.jp/about/lib_yamato/

MyKOSHULIFE

甲州市の移住に関する何でも相談! まずは知ることから始めよう!

甲州市で暮らしてみたいけど、わからないことがたくさん。そんな実際に移住を検討している方からよく聞かれること、子育てのことから住む場所の探し方まで、甲州市に住むための情報を届けします。



Q
climate

どのような
気候ですか?

A
nswer

夏暑く冬寒いという盆地特有の寒暖差が大きい気候です。このため、ぶどうなどの果樹栽培が盛んです。年間降水量は少ないので、夏から秋にかけては雨量が多くなる傾向があります。また年に数回程度の降雪があります。



Q
relationship

住む地域に
なじめる?

A
nswer

地域の住民に対して壁をつくらずに接していくことが大切です。甲州市には地域ごとに様々な行事がありますので、それらを理解し積極的に関わることで地域住民と接する機会が増え、つながりが強まります。



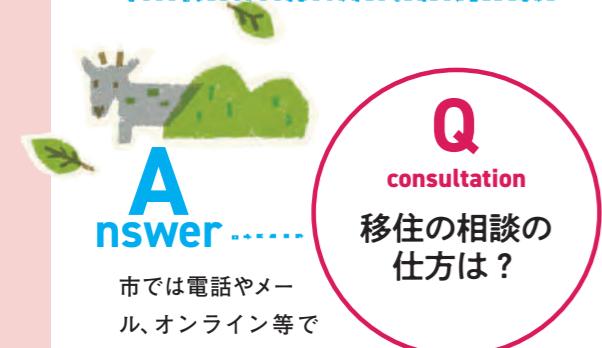
A
nswer

JR中央線が市内に3駅あり、塩山駅には特急列車も停車します。その他市民バスや民間バスが市内を運行しています。しかし決して本数は多くありませんので、マイカーがあった方が週末のお出かけや買い物等の利便性は高まります。また降雪があるのでスタッドレスタイヤは必需品です。



Q
transportation

交通機関は
便利? 車は
必要?



A
nswer

Q
consultation
移住の相談の
仕方は?

市では電話やメール、オンライン等で
随時移住相談を受け付け

ております。また定期的に山梨県外で移住相談会を開催しておりますので、ぜひお気軽にご活用ください。

まずは移住のステップ(P29)と
甲州市の制度(P30~)について知ろう!

- 住まいのこと → GO to P30
- 仕事のこと → GO to P31
- 子育てのこと → GO to P32
- 生活のこと → GO to P34



甲州市への移住の
Step
ステップ!

甲州市に移住するまでのステップを確認してみましょう。あなただけの甲州市を見つけるための移住の手引きです。

移住のステップ

甲州市に住む

甲州市で働く

甲州市の子育て

生活知識&相談



Step 1 甲州市に行ってみる。

まずは甲州市を訪れてみましょう。

言葉や写真だけでは伝わらない空気感、地域の温かさ、果樹畠が織りなす風景、生活環境、都心部とのアクセス利便性など、実際に感じてみることであなたに合う場所なのか判断することができます。四季折々の風景やイベントがありますので、訪れる季節を変えてみると、また違った甲州市を発見することができます。



Step 2



甲州市について知る。

移住はあなたのライフスタイルを大きく変化させます。甲州市はどんなところか、甲州市なら何ができるのか整理し、そして甲州市へ移住後、自分がどのようなことをしたいのか、どういったものを求めて行くのか、ご家族と十分に話し合って移住に対する考えを共有しておきましょう! [移住支援ポータルサイト](#) 「甲州らいふ」も見てみましょう。移住に関する様々な情報が得られます。



Step 3 甲州市に滞在してみる。

甲州市への移住を希望される方へ [お試し移住体験ができる施設を無料](#)で提供しています。[最長7日間](#)滞在することができます。時間に縛られることなくじっくり甲州市に滞在し、仕事や住まい探し、子育て環境確認など、より深く移住後の生活をイメージするために、多くの方にご利用いただいています。また滞在中、移住に関する心配ごとや気になることについて、甲州市移住サポート担当者にじっくり相談することも可能です。

Step 4

さあ、移住してみよう!



甲州市での生活のスタートです。自然と歴史豊かな果樹園のまち甲州市であなたらしい甲州らいふを。

移住に関する不明点やお困りごとは、お気軽にご相談ください

甲州市役所 政策秘書課 ☎ 0553-32-5037 seisaku@city.koshu.lg.jp

甲州市に住む。

甲州市は塩山地域、勝沼地域、大和地域でそれぞれ生活環境や気候、交通インフラも異なります。ライフスタイルにあった物件を探すため、スケジュールに余裕をもって移住計画をしましょう。

不動産業者に相談



住まいを探すには、まずは市内の不動産業者にご相談ください。市内には多くの不動産業者があり、住みたい地域の不動産業者を訪れてみれば、インターネットでは得られない掘り出し物件や地域ならではの情報が得られるかもしれません。
【市内不動産屋マップは上記の QR コードからアクセス!】

市営住宅

塩山・勝沼・大和エリアに点在する7か所の住宅から、ライフスタイルに合わせてお選びいただけます。このうち、定住促進住宅と呼ばれる住宅(塩山2か所、勝沼1か所)は、単身入居にも対応しています。市営住宅の入居要件等、詳細は市建設課までお問合せください。

甲州市お試し移住施設



甲州市へ移住をお考えの方がお試し移住生活を体験できるよう、市内2か所のお試し移住施設を無料で提供しています。利用日数は3日以上7日以内となっています。ゆっくり甲州市に滞在し、地域の魅力や文化、生活環境を確認いただくとともに、移住後の生活イメージを膨らませてみてください。
※ご利用には事前に申請書等の提出が必要です。

洪水・土砂災害 ハザードマップ



甲州市は総面積の多くのを森林が占めています。移住先の地域にはどのような危険が潜んでいるのか、近くの避難施設はどこにあるなど、ハザードマップで確認してみてください。
【甲州市洪水・土砂災害ハザードマップは上記の QR コードからアクセス!】

空き家情報バンク



空き家所有者と甲州市暮らしを希望する皆様が出会えるよう、市では空き家情報バンク制度を運営しています。
【登録物件はこちらの QR コードから確認!】

結婚等新生活支援補助金



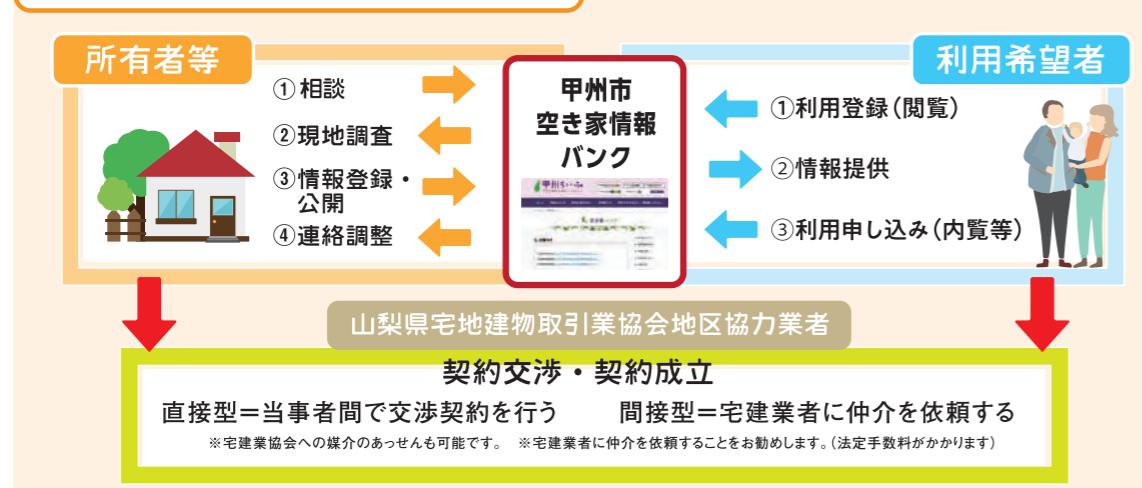
結婚またはパートナーシップ宣誓(「結婚等」という)を機に市内で新生活を開始する世帯に、結婚等に伴う一部費用(住宅取得費用、住宅賃借費用、リフォーム費用及び引っ越し費用)について補助金を交付します。【詳しい要件等は上記の QR コードからアクセス!】

甲州市子育て世帯住宅取得支援補助金



子育てしやすい住環境づくりを支援するため、市内における新築住宅・中古住宅の取得費用、リフォーム費用、引っ越し費用の一部について補助金を交付します。
【詳しい要件等は上記の QR コードからアクセス!】

空き家情報バンク登録及び利用の流れ



※物件の詳細情報は窓口でもお伝えできます。担当者不在の可能性がありますので来庁前にご連絡をお願いします。

【空き家情報バンクについてのお問い合わせ先】甲州市役所政策秘書課 ☎ 0553-32-5037 Mail : seisaku@city.koshu.lg.jp

甲州市で働く。

ハローワークサイトで勤務地を甲州市と検索すると、約180件の求人^{*}があります。内容は事務職からワイナリーまで様々。東京圏等から移住し、転職する場合は、収入が低くなる可能性があるので、移住後の資金計画を立てておくことも重要です。

^{*}2025.12月現在の求人数



シェアオフィス甲州



「シェアオフィス甲州」を甲州市役所勝沼支所敷地内に整備し、新しい働き方(テレワークやクラウドソーシング)を推進しています。1階はサテライトオフィスとなっており、都内企業等の甲州市進出への足がかりとなるよう施設提供しています。2階はWi-Fi・オンラインブースが整備されたカフェテイストの落ち着いたコワーキングスペース空間で、時間や場所に捉われない働き方ができます。

【施設情報】山梨県甲州市勝沼町勝沼756-13
【詳細は上記の QR コードからアクセス!】

コワーキングスペース 登録料:1,010円 使用料:200円/1日 3,050円/月

サテライトオフィス 登録料:1,010円 使用料:1日以上2日以内:5,090円 3日以上7日以内:6,110円 8日以上14日以内:10,180円 15日以上30日以内:20,370円

ハローワーク塩山

仕事を探すならハローワーク! ハローワーク塩山は、甲州市役所本庁舎近くにありますので、市役所で移住相談をするついでにハローワークで仕事を探すことも可能です。

【施設情報】山梨県甲州市塩山上於曽 1777-1 ☎ 0553-33-8609

やまなし・しごと・プラザ

ジョブカフェやまなしや子育て就労支援センターなど、山梨県と山梨労働局が運営する様々な支援窓口が同じフロアに集まっています。就労や子育て、職業訓練に関する情報など、多くの情報が得られます。

【施設情報】JA会館5階(山梨県甲府市飯田1-1-20) ☎ 055-233-4510

甲州市就農定着総合支援制度

市内で新たに就農を志す方が自立就農できるよう、優れた技術を持つ農業者(アグリマスター)や地域の農家グループの指導の下で、就農に必要な実践的技術を習得する長期研修の支援を実施しています。

支援内容

・栽培技術の習得研修・農業経営管理手法の習得研修
・農作物の流通・販売に関する研修・その他研修生の自己立に必要な研修 ※研修の内容により、研修手当5千円/日支給、年間180日以上の研修(月10日以上年間最大240日)、原則2年間(最長3年間)。

空き店舗対策補助金

商店街の活性化と活力あるまちづくりのため、空き店舗を利用した事業者に補助金を交付し、意欲ある新規出店希望者を応援しています!

新規出店支援事業

個人が商店街における空き店舗を小売業、飲食業その他サービス業を営む店舗として新たに出店するために活用する事業への補助。

補助額

1年目に要した経費の1/2以内で
→店舗改修費及び看板等設置費は上限50万円
→店舗等賃借料は月額上限5万円

市では商工会や金融機関等と協力し、創業を志す方の資金調達や創業前後のフォローアップ等の支援を行っています。



甲州市移住支援事業補助金

甲州市への移住・定住の促進及び中小企業等における人手不足の解消を図るために、東京圏から甲州市に転入し、かつ対象企業へ就業または山梨県内で起業もしくは、移住元の仕事をテレワークで継続される方に対し、補助金を交付します。
【詳しい要件等は上記の QR コードからアクセス!】

補助金の額は、単身転入の場合 60万円、
世帯転入の場合 100万円

甲州市小規模企業者持続化補助金

地域雇用の重要な受皿となる市内の小規模企業者の事業の持続的発展を後押しし、地域経済の活性化を図るために、販路開拓(新たな市場への参入に向けた販売方法の工夫など)や、販路開拓と併せて行う業務効率化等の取組を行なう小規模企業者に対して補助を行っています。

補助額 補助率: 2/3以内 限度額: 15万円

甲州市の子育て。



甲州市は
待機児童が
ゼロ/
0!

産前産後から子どもが高校を卒業するまで各種支援や助成制度が充実しており、安心して子育てできる環境があります！

赤ちゃんすくすく支援事業

満1歳までのお子様の保護者へ、無料でベビーベッド・シートを、3か月までのお子様の保護者へ、ベビーバスの貸し出しを行っています。

地域子育て支援センター、子育てサロン

支援センターは市内に4か所あり、未就園児のお子様を持つご家族が自由に集い、お子さんがお友達とおもちゃで遊んだり、保護者の方々が情報交換や育児相談ができる場所です。絵本会、親子ヨガ、スイカ割など様々なイベントが開催されています。子育てサロンは市内に6か所あり、親子で気軽に楽しめるとともに、助産師や地区的民生委員からの「子育てアドバイス」をもらうこともできます。またベビーマッサージなど様々なイベントが開催されています。



子育てに関する助成制度 CHECK

- 小中学校児童生徒給食費無償化…令和3年度から市内小中学校児童生徒の**学校給食費を無償**としています。また、市内に住所を有し、市外小中学校に通う児童生徒の学校給食費の補助を行なっています。
- 出産祝金…市内在住のお子様を出産した保護者の方に対し、**対象児童1人につき10万円**の祝い金を支給します。※支給要件あり
- 子ども医療費助成制度…**高校3年生まで、通院・入院にかかる医療費を助成**します。これにより原則として無料で医療機関を受診することができます。
- ひとり親家庭医療費助成制度…ひとり親家庭の母（父）と児童（高校3年生まで）及び父母のない児童を対象に、**通院・入院にかかる医療費を助成**します。※所得制限あり
- 保育料無償化事業…園児の年齢、保護者の所得などにかかわらず、**保育施設に在園するすべての未満児の保育料を無償化**しています。また、認可外保育施設利用料についても、月額42,000円を上限に無償化を行っています。※保育の必要性が認められる場合に限る。



【学校等の数 (2025.12月現在)】

●公立保育所: 4ヶ所

●市立小学校: 13校

●私立認定こども園: 8ヶ所

●市立中学校: 3校

●児童クラブ: 14ヶ所

地区担当保健師（マイ保健師）

お住まいの地区ごとに担当の保健師がいます。安心して妊娠／出産／子育てができるよう、地区担当保健師（マイ保健師）が妊娠中から継続的にサポートしていきます。

妊娠婦新生児訪問

妊娠さんが安心して妊娠期を過ごし、出産に向けた準備ができるよう妊娠中1回、生まれた後の新生児期に2回、2～3ヶ月児に1回、保健師または助産師が訪問し、相談をお受けします。

パパママクラス

“赤ちゃんの生まれた後の生活はどんな感じ？”、そんな妊娠、出産の不安を仲間と一緒に学び、ご家族で新しい命を迎える準備のための講座です。助産師、保健師などから専門的な話も聞けます。同じ市で出産・子育てするママ同士の情報交換の場にもなっています。

産前産後のママのほっとスペース

妊娠さんや産後のママが赤ちゃんと一緒に気軽に立ち寄り、ほっと一息つける場所です。ママ同士で情報交換したり、疲れている時は横になって休んだり、助産師や保健師の専門相談も受けられます。

プレママ DAY in ほっとスペース

妊娠さん向けの学級を月1回ほっとスペースにて行っています。助産師から分からぬことを聞いたり、先輩ママと交流ができます。

ママのあんしんテレfon

妊娠中の腰痛が辛い、赤ちゃんが泣き止まないなど、妊娠さんや産後ママの不安解消のため、担当助産師が電話相談に応じます。



ファミリーサポート制度

育児の手助けをしてほしい方と、育児の手助けができる方を繋ぐ制度で、仕事や買い物など用事がある時に、「お父さんやお母さんのピニッヒッター」として一時的に子どもを預かり、地域ぐるみで子育てを応援しています。



甲州市の子育てに関する情報は甲州市HPの
「子育て応援団」のページをチェック！

甲州市のHP内にある、子育て情報をまとめたサイト「子育て応援団」。妊娠中から産後までに必要な各種手当や、支援に関する情報がまとめられており、生活に役立つ情報が得られます。



甲州にこにこ子育てガイドを活用しよう

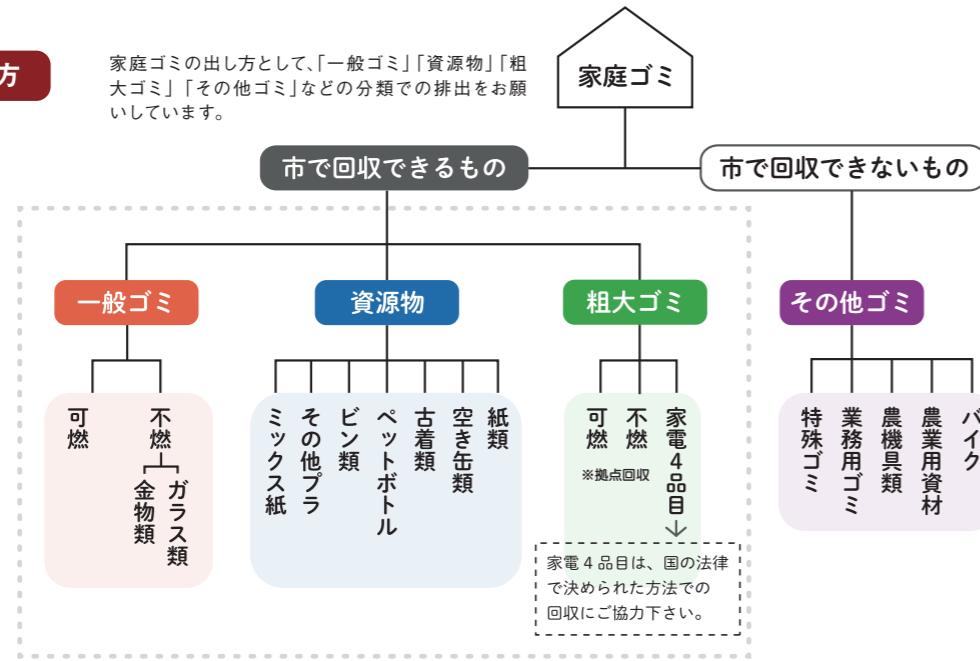
妊娠・出産から中学卒業までの子育てに役立つ情報を集めた冊子。電子版もあり、甲州市の子育て世帯に必要となる内容がわかりやすく1冊にまとめられています。



生活知識 & 相談

ゴミの出し方

家庭ゴミの出し方として、「一般ゴミ」「資源物」「粗大ゴミ」「その他ゴミ」などの分類での排出をお願いしています。



自治会

地方では、お隣さんと顔が見えるお付き合いが一般的です。市内には、区や組という地域のコミュニティ組織があり、自分たちの住む地域をより良いものにするため、また行政の手の届かない部分を補うために活動しています。

区や組への加入は強制ではありませんが、防災・防犯・ゴミなど地域生活に密着した課題解決のため、また地域を理解するためにもぜひ加入をご検討ください。

消防団



消防団は、甲州市に居住するまたは勤務する年齢18歳以上の方（男女問わず）で構成され、地域防災の要として地域に密着し、「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神に基づき、家族や地域住民の安心と安全を守る重要な役割を担っています。しかし近年団員確保が難しくなり地域防災力の低下が懸念されています。甲州市に移住される場合には、自身の地域を守るためにもぜひ加入をご検討ください。

移住に関する相談窓口

山梨県や甲州市に移住したい方は、ぜひお気軽に相談窓口をご利用ください。コーディネーターが親身になって、あなたの疑問や不安を解決します。また東京都内にも相談窓口があるので、ぜひご活用ください。

●やまなし暮らし支援センター

東京交通会館8階
(東京都千代田区有楽町2-10-1)
☎ 080-1600-5730
yamanashi@furusatokaiki.net

●ふるさと山梨定住機構

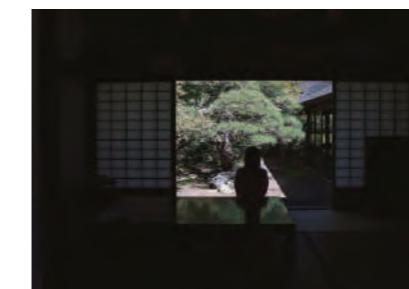
山梨県庁北別館4階 人口減少危機対策課内
(山梨県甲府市市丸の内1-6-1) ☎ 055-223-1845

●甲州市役所 政策秘書課 地域未来戦略室

(山梨県甲州市塩山上於曾1085-1) ☎ 0553-32-5037
seisaku@city.koshu.lg.jp

Tokyo

Yamanashi



甲州市の歴史を巡る。 vol.04

花とえんむすびの寺

放光寺

ほうこうじ

●山梨県甲州市塩山藤木2438
拝観時間：9時00分～16時30分
拝観料：一般 300円（20名以上の団体は200円） こども100円
駐車場：50台 定休日：無休（拝観）
<https://hokoji.org/>

放光寺は元暦元年（1184年）源平合戦で功績をたてた安田義定が一ノ谷の戦いの戦勝を記念して創立されました。お寺の境内には梅、椿、桜、牡丹、紫陽花、花菖蒲、山吹など季節ごとに見事な花が咲くことから、「花の寺」とも呼ばれています。木造大日如来坐像や木造不動明王立像など貴重な文化財も収蔵する中、「えんむすびの寺」としても知られる所以となった天弓の愛染明王坐像に手を合わせに来る人も多いそう。縁結び、恋愛成就にご利益があり、愛染明王像の腕から伸びる紐に、赤い紐と五円を結ぶ縁結び祈願ができます。毎月第3日曜日にはさまざまな出店者が居並ぶ「参道市」も開催。地域に開かれた風通しの良いお寺として親しまれています。

ぶどうの丘が50周年！



1975年に「ぶどうの丘センター」として開業し、観光・宿泊の拠点として続いてきた、甲州市勝沼にあるぶどうの丘が2025年8月1日で50周年を迎えました。市民や観光客に長年親しまれてきたこの施設は、どのような思いで運営されてきたのか。これからの未来にどんな可能性を見ているのか。支配人・坂本豊さんにお話を伺いました。

観光と情報発信の“顔”として

「ぶどうの丘は、甲州市産ワインの販売拠点であると同時に、観光と情報発信の中心地として、長年その役割を担ってきました。」

そう語るのは、「甲州市勝沼ぶどうの丘」の支配人・坂本豊さん。1975年、旧勝沼町が開設したこの施設は、宿泊・レストラン・ワイン展示室を備えた全国的に珍しい“町営のワイン観光施設”としてスタートしました。市町村合併を経てもなお、甲州市が直営で運営を続けている稀有な公共施設です。

「全国的に見ても、市が直営で観光施設を運営している事例は本当に少ないです。その中でも、ぶどうの丘は地元に根付きながら在り続けてきた、特別な存在だと思っています。」

「地域に住む」との豊かさとは

ぶどうの丘は、地域の観光と産業の橋渡しをするような施設です。

坂本支配人は、移住希望者や地域外から訪れる人々が、この場所の新しい魅力を引き出して

ぶどうの丘では、甲州市内の様々なワイナリーのワインを取り扱っています。たくさんの種類のワインを楽しみたい方にはワインカーヴで、少量試飲にはワインサーバーでというようにニーズにあわせた楽しみ方を選べます。



「勝沼ぶどうの丘」支配人・坂本豊さん



くれる存在だと感じているといいます。

「この地域には、ぶどうを中心とした文化や風土がしっかりと根付いています。」

しかしながら、地元の人は意外とその価値に気づいていないことが多いです。外から来た人が“ここ面白いじゃん”って言ってくれて、私たちも“そうか、ここってそういう場所だったんだ”って再認識できる。そういう意味では、移住者の視点って地域の宝を掘り起こす力があると思います。」と坂本支配人は語ります。

ぶどうの丘は今、観光だけでなくワイン産業全体を支えるための新しい挑戦も始めています。たとえば甲州市産ワインの海外輸出支援や、品質の見える化に向けた情報発信などを積極的に行っています。

「甲州市は“日本ワインのふるさと”と言われる場所。だからこそ、ただの観光地ではなく、ワインを中心とした地域の産業そのものを発信できる拠点でありたいと思っています。また、甲州市が直営している強みは、地域全体のバランスや信頼関係を守る運営ができるこだと思っています。これからも皆様に“ぶどうの丘あって良かった”って言ってもらえるような施設に育てていきたいですね。」

見晴らし、温泉、ワイン…ここにしかない時間

ぶどうの丘の最大の魅力は、なんといっても地下ワインカーヴ。

甲州市内のワイナリーから集められた推奨ワインが常時約150銘柄そろい、訪れた人は「タートヴァン」という金属製の試飲カップを購入して、自由に飲み比べを楽しめます。また、展望テラスからの眺めもぶどうの丘の魅力の一つ。甲州市とその向こうの甲府盆地を一望できるロケーションは、まさに絶景の一言。この絶景を眺める温泉「天空の湯」や、“恋人の聖地”に選定されたスポットもあります。

ぶどうの丘は、地域皆様の愛情の結晶だと思います。この土地で育ったワイン文化の価値を高め、地域発展に寄与することが役割とも考えます。そのためには、観光農園や農家とのバランスをが必要不可欠だと思います。

「ここでワインと絶景を味わい、“地域の観光農園やワイナリーへ”という流れを大切にしているんです。私たちだけでなく、地域全体で観光客を迎えていこうという願いがあります。」

「市民の場所」として、もっと身近に

「観光施設って、地元の人にとっては“観光客が訪れる場所”や、“日常からはちょっと遠い存在”に感じることがあると思うんです。しかし、ぶどうの丘は市民の憩いの場でもありたいと思っています。」

坂本支配人は、地域の人にこそ、気軽に足を運んでもらいたいと話します。

「温泉やレストランだけでも利用してもらえば、展望テラスで景色を眺めるだけでも癒されます。ぶどうの丘も2025年で50周年を迎えました。ここを、あらためて“自分たちの場所”としてぶどうの丘を見てもらえたらうれしいですね。」

50年前、ぶどうとワイン、地域の魅力を伝える拠点として誕生した「ぶどうの丘」。

地域で働く人々の日々の暮らしとともに歩んできたこの場所は、これからも、温泉や宿泊施設、レストラン、そして四季折々の風景とともに、多くの人の生活に寄り添いながら、甲州市の魅力を発信し続けていくことでしょう。

ぶどうの丘の敷地内には宿泊施設も併設しています。ワインを堪能した後は、温泉に浸かり疲れを癒やすことができ、1日ここで過ごすことができます。



ぶどうの丘 | 50年のあゆみ
BUDOONOOKA 50 Years of History





1971年(昭和46年) 勝沼町が国の「自然休養村」の指定を受け、観光振興に着手。

1974年(昭和49年) ぶどうの丘センター建設に着工(2か年事業計画)。

1975年(昭和50年8月1日) 「ぶどうの丘センター」開業。レストラン、宿泊、研究施設など観光複合施設に。

1980年(昭和55年) 「バーベキューガーデン」開業。

1985年(昭和60年) 「地下ワインカーヴ」完成。町推奨ワインが一堂に並ぶ大規模試飲施設に。

2000年(平成12年) ふれあい交流センター「天空の湯」開業。

2001年(平成13年) 宿泊機能の拡充に向け「宿泊棟(新館)」増設。

2005年(平成17年) 市町村合併で甲州市誕生。「甲州市勝沼ぶどうの丘」に名称変更。

2020年(令和2年) 国内最大数15台(90種類)の「コイン式ワインサーバー」導入。

2023年(令和5年) 絶景空間の演出に向け「展望テラス」改修。

2025年(令和7年) 開業50周年を迎える。

甲州市民的ぶどうの丘の楽しみ方

1. 天空の湯で疲れを癒す



2. イチオシの絶景バーベキュー



ぶどうの丘にある温泉施設「天空の湯」。甲州市民は市民料金で入れるため、リピーターも多いです。地元的には人が少ない午前中に入るのがおすすめ。甲府盆地を一望しながら入る温泉は格別です!

アクセス

電車: JR中央本線「勝沼ぶどう郷駅」より徒歩約15分 車: 中央自動車道「勝沼I.C」より約5分
※敷地内に無料駐車場あり(大型バス対応可)

営業時間(施設により異なる) R7.12月現在

- 売店/8:30~20:00 ●地下ワインカーヴ/9:00~17:30(試飲最終受付 17:00)
- 展望ワインレストラン/ランチタイム 11:30~15:00(ラストオーダー14:30)・ディナータイム17:00~21:00(ラストオーダー20:00)
- 天空の湯/8:00~22:00(最終受付 21:00) 温泉ラウンジ/休憩所 天空の湯営業時間内利用可能
食事処12:00~20:00(ラストオーダー19:30)
- バーベキューガーデン/11:00~17:00(ラストオーダー16:00) 12月15日以降土日祝日のみ営業
- 宿泊チェックイン/15:00~・チェックアウト:10:00

主な施設

- ・地下ワインカーヴ…甲州市内ワイナリー、約150銘柄以上のワインを常時取り揃えあり。
タートヴァン(試飲用カップ)を購入し、自由に試飲可能。地下空間でワインを楽しめる全国最大級の施設。
- ・展望ワインレストラン…甲州ワインに合う季節料理を提供。四季折々のぶどう畠の絶景ロケーションが魅力。
- ・天空の湯(温泉)…内湯と露天風呂から甲府盆地の風景が一望できる。日帰り入浴も可能、地元住民にも人気。
- ・宿泊施設…洋室・和室を完備した全21室。団体・家族利用にも対応。
- ・ワインショップ…推奨ワインやオリジナルの他、お土産品を多数販売。全国配送対応
- ・イベント…季節ごとにイベントを開催。観光と暮らしの距離が近い、移住者にも人気の拠点。

甲州市勝沼 ぶどうの丘 〒409-1302 山梨県甲州市勝沼町菱山5093

【お問い合わせ先】 電話番号: 0553-44-2111 公式サイト: <https://budounooka.com>



KOSHU LIFE MEMBER



甲州らいふもなんと10年目! 今年度はこのメンバーで誌面を制作しました。甲州市の特色や移住者の声を届けるべく、さまざまな場所へおもむいて、いろいろな話を聞いて、今回の号を完成させました! メンバー紹介とともに、メンバー自身が選んだ「甲州市のお気に入り」を紹介しています。

甲州KULAS

甲州市で暮らすお仕事集団。メンバーは年齢も経験もバラバラですが、「甲州市に貢献したい」という志は一緒。取材・インタビューを中心今回甲州らいふを制作してくれました。



三森 望さん



山口 祐子さん



雨宮 美輪さん

とにかくパン屋さんがたくさんある甲州市。どのお店も個性豊かで、はしごするのもおすすめです!

甲州市にはクラフトビールのお店が現在5店舗。山梨ならではのフレーバーや素材を使った地ビール、オススメです!



キャンベル敦子さん



tairaさん



若尾由紀子さん
「甘草屋敷子ども図書館」
絵本は勿論、お庭を眺めることも大好きです。

甲州らいふ編集部

公募で参加してくれた編集メンバー。インタビュー、図書館ページ、イラストなど幅広く関わり、誌面づくりを支えてくれました。



季節によって変わる豊かな山々を愛でて癒されています。お気に入りは、ほっこり屋特製馬肉コロッケ。

BEEK DESIGN

山梨の人や暮らしを伝えるをコンセプトに、デザインや編集、写真などで伝える仕事をしています。甲州らいふではvol.02から関わり、冊子全体を監修しています。



土屋誠さん

陶守いくみさん

こんなに長く一つのまちに関わっていることがとても嬉しいですし、毎回新しい発見がある奥深いまちだなと感じています!(土屋)

甲州市役所 政策秘書課

甲州らいふの発行元は甲州市役所の政策秘書課です。地域創生や人口対策、空き家情報バンクなども担当しています。この冊子を通して甲州市の魅力を知ってもらえたなら嬉しいです。



三森昭栄さん

町田 楓さん

載せきれなかった甲州市の真の魅力は、現地でのお楽しみ。ぜひ一步踏み出し、あなただけの甲州らいふを見つけてください!(町田)



KOSHU LIFE

こうしゅうらいふ

ご自由にお持ちください

TAKE FREE

甲州らいふ Vol.13 発行日：2025年12月25日

発行元：山梨県甲州市役所 政策秘書課

取材：甲州 KULAS デザイン/写真：BEEK DESIGN

【お問い合わせ】山梨県甲州市役所 政策秘書課 ☎ 0553-32-2111 (代)

<https://www.city.koshu.yamanashi.jp/iju/>